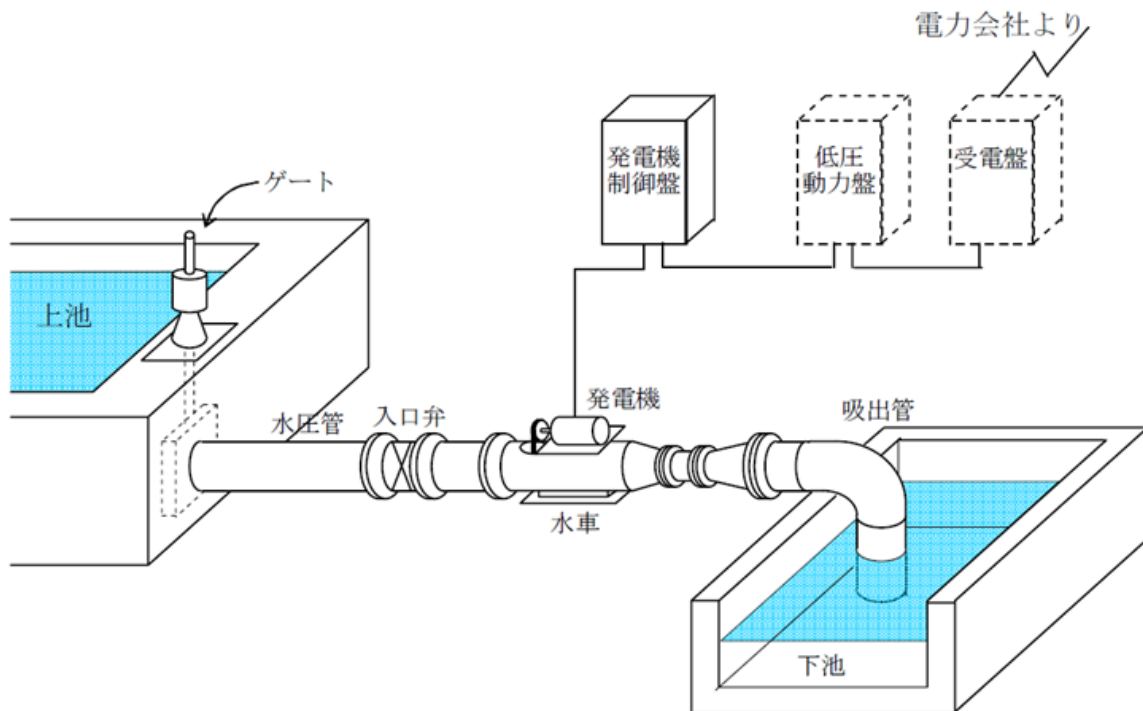


【対策名】水落差エネルギー活用設備の導入（小水力発電）

【概要】

小水力発電は一般の水力発電と同様に流水の持つ位置エネルギー、運動エネルギー、圧力エネルギーを水車によって回転の運動エネルギーに変換し、発電機を回転させて電力を得るものである。一般の水力発電と異なり、大規模な土木施設を必要としないことを特徴としている。その運用に際しては、温室効果ガスの排出はない。特に、水量の安定した下水処理施設を対象とした場合は、昼夜を問わず安定した電力を得ることができる



【導入効果等の例】

放流部に有効落差 4m の落差が存在し、年平均 65,200 m³/日 (0.75 m³/s) の流量を利用できる処理場を想定したケーススタディによると、年間発電電力量は 180.5MWh/年と試算された。

【出典・参考文献】

公益財団法人日本下水道新技術機構，下水道における新エネルギー技術の導入・評価に関する技術資料（2007/3）